



2022. 6. 15

田植えから 2 週間、稲はしっかり根付き、田んぼの上をツバメが飛び交っています。ヨシ原からはオオヨシキリ、林からはホトトギス、コジュケイの鳴き声が聞こえ、生き物のにぎわいが見られるようになりました。田んぼで羽化したアキアカネは、涼しい山へ移動する前のわずかな時を里で過ごしています。



「ギョギョシ ギョギョシ」
今年もヨシ原にきました。



キアゲハ



キタテハ



ノシメトンボ



シオカラトンボ



コジャノメ



ヒカゲチョウ



アキアカネ



オオシオカラトンボ



オオカモメツル



ホタルブクロ



チダケサシ



イヌヌマトラノオ



オカトラノオ



稲の害虫を食べてくれる夏鳥 ツバメ



??ユニークなムシ
ムラサキシキブの葉
を食べるイチモンジカ
メノコハムシの幼虫

<季節メモ>

梅雨時は天国 でんでんむしむし カタツムリ

カタツムリは陸で過ごす巻貝。殻のない「ナメクジ」に対し、殻があるのは「カタツムリ」「デンドムシ」「マイマイ」と呼ぶ。体に 2 対計 4 本のツノ（触角）がある。大きいツノの先にある眼は光を感じる程度で物は見えていない。カタツムリは骨がない代わりに殻がある。殻は危険、乾燥、寒さから身を守るもので殻のもととなるカルシウムが摂れるコンクリートは大切な食料源となる。動きはゆっくり腹足で上手に移動する。木を登り、葉の裏でも細いつるでもナイフの刃の上でも平気。生態はユニーク、オスでもありメスでもあり、繁殖の合図は大触角の間にできるこぶとのこと。

進化の過程で陸に上がった巻貝「カタツムリ」にとって、やはり地上は厳しい環境なのだろうか。雨が続く梅雨時はカタツムリにとっては天国なのだろう。

写真・編集：晝間



ミスジマイマイ(右巻き)

右巻き、
左巻き
どっち?



ヒダリマキマイマイ(左巻き)